

3 転籍ソ連船抑留問題

403 昭和18年4月28日 大本営政府連絡会議了解

「蘇聯船舶ノ航行禁遏、物資輸送阻止ノ要望

ニ關スル獨側覺ニ對スル帝國政府回答」

付記 昭和十八年四月一日付、条約局第二課作成

「ソ」聯旗ノ下ニ「ソ」聯邦ガ軍事的目的ニ
使用シ得ト認メラルル物資ヲ運送スル米國船
ニ對シ帝國ノ執リ得ベキ措置ニ關スル法律上
ノ意見」

●蘇聯船舶ノ航行禁遏、物資輸送阻止ノ要望ニ關スル獨
側覺ニ對スル帝國政府回答

(欄外記入) 帝國政府ハ昭和十八年三月二十五日附在京獨大使館覺ヲ以
テ申出アリタル米國ヨリ東蘇ヘノ物資ノ輸入阻止ニ關スル

件ニ關シ左ノ通回答ス

一、帝國政府ニ於テハ開戦後ノ敵國船舶ノ船籍移轉ハ原則ト
シテ之ヲ認メサル方針ニシテ右ニ該當スル蘇聯船舶ニ對
シテハ之ヲ敵國船トシテ處分スルコト云フ迄モ無く又米

國ヨリ東部蘇領ヘ輸入セラルル資材カ果シテ重慶側ニ仕
向ケラルルモノナルニ於テハ帝國トシテ之ヲ容認シ得サ
ルコト勿論ナリ依テ帝國ハ開戦以來國際法ノ原則ニ準據
シ帝國近海ヲ航行スル蘇聯船舶ノ行動ニ關シ嚴重ナル監
視ヲ爲シ隨時停船ヲ命シ微細ニ巨ル臨檢ヲ爲シ軍事的幫
助ノ有無戰時禁制品輸送ノ有無ヲ調査シ居レルカ現在迄
ニハ右船籍移轉又ハ戰時禁制品輸送ノ事實ヲ確認スルニ
至リ居ラス(米英側ニ於テ帝國カ援蘇物資ノ西比利亞流
入ニ一般的了解ヲ與ヘ居ルカノ如キ言辭ヲ弄シ居ルハ最
近米英側ノ日獨離間策ノ最モ顯著ナル一例ニシテ兩國ト
シテ警戒ヲ要ス)

更ニ蘇聯カ米國ニ對シ對日攻撃ノ爲ノ蘇領利用ヲ許與ス
ルコトアラハ右ハ蘇聯ノ中立義務違反ナルト共ニ帝國ニ
對スル重大ナル脅威ナルヲ以テ帝國ハ本件ニ關シ累次蘇
聯政府ノ注意ヲ喚起シ來レル處之亦現在迄ニ斯ル事實ヲ
斷定スヘキ確證ヲ得ルニ至ラス

二、帝國政府ニ於テハ今後ニ於テモ蘇聯船舶ノ臨檢及戰時禁
制品輸送禁遏ノ措置ヲ執ル意向ナルカ唯帝國ハ獨伊トノ
對米英共同戰争遂行上ノ必要ヨリ蘇聯トノ間ニ事ヲ構フ

ルコトハ之ヲ避ケ度キ方針ナルコトハ獨逸政府ノ已ニ承知セラルル所ニシテ蘇聯船舶ノ航行ヲ禁遏スルカ如キ措置ヲ執ルコトハ適當ナラスト思考ス蓋シ交戰狀態ニ在ラサル二國間ニ於ケル船舶ノ拿捕載貨ノ抑留等カ當該兩國間ノ關係ヲ戰爭狀態ニ迄發展セシメタル事例鮮ナカラス今帝國カ太平洋ニ於ケル蘇聯船舶ノ航行ヲ防遏スルカ如キ措置ヲ強行スルニ於テハ日蘇關係ヲ危機ニ導ク虞甚タ大ニシテ右帝國ノ方針ニ反シ米英ノ術中ニ陥ルノ結果ヲ招來スル危險アルヲ以テナリ

三、從來帝國カ蘇聯船舶ニ對シ執リタル措置ノ概要ヲ述フレハ左ノ如シ

(イ)防禦海面設定ニ依ル航行制限

帝國ハ大東亞戰勃發ト同時ニ國防上ノ必要ニ基キ津輕海峽及宗谷海峽ヲ含ム帝國領土ノ沿岸十二方面ニ防禦海面ヲ指定シ右海域内ニ於テハ特許船舶ヲ除キ一般船舶ノ通航ヲ禁止セリ但シ宗谷海峽ニ付テハ「ボーツマス」條約ノ關係モアリ晝間一定ノ航路ヲ限り開放スルコトトセリ右措置特ニ津輕海峽ノ通航特許ヲ事實上與ヘサル方針ヲ執リタル爲米國及「カムチャツカ」ト浦

潮間ヲ航行スル蘇聯船舶ハ晝間宗谷海峽ヲ通過スルカ又ハ對馬海峽ヲ迂回スルノ他ナキコトトナリ然モ冬期間ハ宗谷海峽通航ハ流水ノ爲事實上困難ナルヲ以テ對馬海峽經由ニ依ルノ他ナキ次第ナリ右ニ關シ蘇側ハ津輕海峽ノ閉鎖ハ蘇聯ノ正當ナル權利及重大ナル經濟的利益ノ侵害ナリトノ趣旨ニテ數次嚴重ナル抗議ヲナシ執拗ニ同海峽通航ノ特許ヲ求メ來タリ今年始ニ至リテハ本件カ漁業條約交渉ノ進行ニモ影響アリト威嚇的態度ヲトリ又日高大使一行ノ通過查證發給ヲ澁ル等ノ嫌カラセの態度ヲ示セリ然レトモ我方ノ強硬不變ノ態度ニ依リ蘇側ハ本件ヲ差當リ斷念セルモノノ如シ

尙本年二月十七日蘇聯船「イリメン」號及「コーラ」號ハ日本本土南方東支那海海面ニ於テ國籍不明ノ潛水艦(諸般ノ事情ヨリ右ハ米國潛水艦ナリト認メラル)ニ依リ撃沈セラレタル事件アリ蘇聯側ハ「イリメン」號ニ關シ「イ」號カ日本軍艦ニ依リ數次停船ヲ受ケタル後間モナク日本海軍ニ依リ特ニ防禦セラレ居ル海面ニ於テ撃沈セラレタルニ鑑ミ同船カ日本潛水艦ニ依リ撃沈セラレタル疑ヒ濃厚ナリトノ趣旨ニテ注意ヲ喚起シ

來レル次第アリ

(ロ) 航路指定

帝國海軍ハ昭和十六年十二月十三日第四千島水道及溫
禰古丹水道ニ於テ蘇聯船「クズネツクストロイ」號ヲ
二回ニ涉リ停船訊問ノ上對馬海峽通航ヲ命シタリ
更ニ昭和十七年四月對馬海峽ヲ通航スル蘇聯船舶ニ對
シ一般的ニ本州東方、九州南方及對馬海峽ニ於ケル航
路ヲ指定スルコトセルカ右ノ結果對馬海峽ヲ通過ス
ル蘇聯船舶ノ航路カ相當延長セラルルコトナレリ

(ハ) 停船臨檢

開戰以來帝國海軍ハ帝國近海ヲ航行スル「ソ」聯船舶
ノ行動ニ關シ嚴重ナル監視ヲナシ隨時停船ヲ命シ微細
ニ亘ル臨檢ヲナシ居リ其ノ件數ハ今日迄ニ實ニ莫大ナ
ル數ニ上リ茲ニ詳述スルノ煩ニ堪ヘサル程ナルカ殊ニ
本年二月對馬水道ニ於テ蘇聯船舶二隻カ帝國海軍ニ依
リ相當長期ニ亘リ抑留セラレ臨檢ヲ受ケタルニ對シ蘇
側ハ三月覺書ヲ以テ強硬ナル抗議ヲ提出シ來レル事件
アリ

而シテ此等ノ臨檢ニ於テ輸送物資ノ主ナルモノハ砂糖、

小麥粉及其ノ他ノ穀物ナルコトヲ現認セリ

(欄外記入)

「スターマー」ニハ二十四日交付

(付記)

「ソ」聯旗ノ下ニ「ソ」聯邦ガ軍事的目的ニ使用シ得
ト認メラルル物資ヲ運送スル米國船(別添在京獨逸大
使館覺書參照)ニ對シ帝國ノ執リ得ベキ措置ニ關スル
法律上ノ意見

昭和十八年四月一日 條約局第二課

本件ニ關シ法律上考察ヲ要スルハ左ノ二點ナリ。

(一)「ソ」聯旗ノ下ニ航行スル本件船舶ヲ拿捕沒收スルコト
ヲ得ルヤ

(二)帝國ハ前記船舶ノ運送スル物資ヲ如何ナル範圍ニ於テ戰
時禁制品トシテ取扱ヒ得ルヤ。

按ズルニ右ハ左ノ通決スベキモノナリト認ム。

(一)ニ付テハ米國旗ヨリ「ソ」聯旗ヘノ船籍移轉ガ大東亞
戰爭開始後ニ行ハレタル場合ニ於テハ帝國海戰法規第

二十二條及第二十三條ノ規定ニ依リ右移轉ハ原則トシテ無效ナルヲ以テ拿捕沒收ヲ爲シ得ルモノト認ム。

(二)ニ付テハ要件ニアリ。然シテ右ニ要件ハ之ヲ合セテ考慮スルコトヲ要ス。

即チ

(イ)品目

戰時禁制品トシテ取扱ヒ得ベキ品目表ハ帝國海戰法規修正規定ニ依レバ別紙ノ通ナルヲ以テ右品目ノ範圍ニ於テ之ヲ戰時禁制品トシテ取扱フコトヲ得ベシ。

(ロ)仕向先

仕向先ニ付テハ帝國海戰法規第五十九條ノ二ノ規定ニハ「貨物ニシテ指圖人渡ニ依リ又ハ荷受人不明ノ儘敵國ニ貨物ヲ供給スル常用經路タル中立港ニ陸揚セラルベキモノナルトキハ第五十八條ニ規定スル到達地ヲ有スルモノト推定ス」トアリ戰時禁制品ガ蘇聯ノ如キ中立國ニ陸揚セラルル場合ニ於テモ之ヲ沒收シ得ベキ旨ヲ規定シ居ルニ依リ浦鹽ニ陸揚セラルル貨物ニシテ重慶政權ニ仕向ケラレタルモノト認定セラルベキ場合アリ得ベク右ニ對シテハ法律上ハ重

慶政權ハ帝國ニ對シ中華民國ヲ代表スル資格ヲ有セザルニ依リ之ニ對シ戰時禁制品ノ規定ヲ適用シ得ザル儀ナルモ實際問題トシテ戰時禁制品ニ準ジテ取扱フ場合アリ得ベシ。但シ蘇聯向ノ物資ハ假令右物資ガ蘇聯ノ戦力ヲ増強スル場合ニ於テモ之ニ對シ何等ノ措置ヲ採リ得ル限リニ非ズト認ム。

(三)右ニ關聯シ日「ソ」中立條約ト本件トノ關聯ヲ考慮シ置クノ要アリ。同條約第二條ノ規定ハ締約國ノ一方ガ一又ハ二以上ノ第三國ヨリ軍事行動ノ對象ト爲ル場合ニハ他方締約國ハ該紛爭ノ全期間中中立ヲ守ルベキ旨ヲ規定シ居ル處右ニ基ク「ソ」聯ノ中立義務ハ戰時國際法上ノ中立義務ト同一内容ヲ有スルモノニシテ蘇聯ハ前記事實ニ依リ何等中立義務違反ノ問題ヲ生ズルコトナシ。又帝國トシテ前記ノ如キ措置ヲ執ルコトニ依リ日「ソ」中立條約違反ノ問題ヲ生ズルコトナシ。

(別 添)

在京獨逸大使館覺書(三月二十五日在京獨大使持參假譯)

(昭和十八、三、二十九 政四)

一、在東亞蘇聯商船ハ昨年三月三〇萬噸ナリシモ昨年末ニハ四四萬六千噸ニ増加シ客年末ニ於ケル在東亞蘇聯商船ハ一四三隻ナリキ、此ノ蘇聯商船ノ數増大ニ關シ太平洋ニ於テ蘇聯旗ノ下ニ航行スル商船ガ以前歐洲水域ニ於テ蘇聯商船ノ使用スル信號ヲ使用シ居ル事實ハ興味アリ、而シテ右商船中ニハ獨逸側ガ確實ニ擊沈ヲ確認シ得タルモノモアリ又歐洲水域ニ現在猶ホアルモノモアル次第ナリ、從テ亞米利加合衆國或ハ其他ノ敵國ガ太平洋航行ノ爲メ商船ヲ蘇側ニ讓渡シ右商船ガ國旗ノ移轉ヲ隱蔽センガ爲メ他ノ蘇聯商船ノ名前乃至信號(既ニ擊沈セラレタル船舶ノ)ヲ使用シ居ルヤニ認メラルル次第ナリ、米側ヨリ蘇側ニ讓渡セラレタル三隻ノ名前ハ獨逸海軍司令部ニハ判明シ居レリ即チ前北米貨物船「コースト、ミラー」號(三二八三噸)「オドゥナ」號(三四七四噸)「デペール」號(三四七五噸)ハ何レモ一九二〇年建造ニ係ルモノナルガ今ハ蘇國旗ノ下ニ「キエフ」「ヴィシエラ」「ツイオルコヴスキ」ノ名ヲ有シ居レリ、爾余ノ蘇聯船舶ニ付テハ以前北部大西洋或ハ米海岸ニ使用セラレ居リシヲ認め

得ベシ、敵國側ガソノ船舶難ニ拘ラズ太平洋ニ於テ西比利亞諸港向商船ヲ増加シ使用シ居レル事實ハ敵國側ガ如何ニ太平洋ニ於ケル西比利亞諸港向航行ニ重大ナル意義ヲ附シ居ルカヲ示シ右航行ヲ敵國側ハ今後尙増加シテ行ハントシ居ルコトヲ豫期セシム

二、獨逸政府ニ到達シ居ル情報ニ依レバ西比利亞諸港ニ到着スル商船ハ無數ノ「タンク」其他「アルミニウム」鉛等ノ重要物資機械其他對獨戰線向食料品等ヲ輸入シ居ルノミナラズ又西比利亞ニ於ケル北米合衆國ノ倉庫及基地設定ノ爲ノ資材ヲモ輸入シ居ルモノナリ、特別ノ「ソース」ヨリ獨逸政府ノ得タル所ニ依レバ「ペトロパウロウスク」或ハ浦潮斯德ニ北米合衆國ノ海軍連絡機關ノ設定ガ企圖セラレ或ハ既ニ設定セラレタル趣ナリ、更ニ獨逸政府ノ得タル情報ニ依レバ右積荷ノ一部ハ極メテ少量ノモノノ如キモ重慶政權ニ向ケラレ居ル由ナリ、從テ右船舶ノ航行ニ依リ軍事的ニ重要ナル損害ヲ蒙ルハ獨逸ノミナリト認ムルハ誤リナルベシ、蓋シ極東蘇領ニ於ケル北米ノ倉庫及基地竝ニ重慶向輸送ハ日本ニ對シ向ケラレ居ル次第ナレバナリ、右日獨兩國共通ノ利益ニ鑑ミ獨逸政

府ハ帝國政府ニ對シ太平洋ニ於ケル蘇聯船舶ノ航行ヲ監視セラレ出來得ベクンバ右ヲ防遏セラレンコトヲ希望スルモノニシテ帝國政府ガ既ニ如何ナル措置ヲ執ラレタルヤ、或ハ右太平洋ニ於ケル蘇聯船舶ノ航行ヲ監視シ其ノ重要ナル戰爭資材ガソノ目的地ニ到達スルヲ阻止スル爲將來如何ナル措置ヲ執ル意圖ヲ有セラルルヤヲ通報サルルニ於テハ感謝スル所ナリ、特ニ獨逸政府ハ帝國側ノ措置ニ依リ從來既ニ戰爭資材ガ蘇聯船舶ニ積載セラレ居ルヲ確認セラレタルヤ否ヤ而シテ確認セラレタル場合ニ於テハ右戰爭資材ガ帝國側ノ監視ニ依リ如何ニ取扱ハレタルカニ關シ通知セラルルニ於テハ感謝スル次第ナリ、獨逸政府ノ有スル報道ニ依レバ亞米利加及浦鹽ノ間ニ使用セラレタル商船ノ噸數(往復航行ノ途上ニアル船舶竝ニ亞米利加側ノ諸港或ハ浦鹽ニアル船ヲ含ム)ハ左ノ通

客年三月 一三八、〇〇〇噸

客年四月 九九噸

本年一月 一六〇噸

本年二月 二〇〇、〇〇〇噸

更ニ情報ニ依レバ蘇聯商船ニ積マレ居ル物資ニハ屢々亞

米利加側技術者同行シ居リ右事實ハ食糧及原料ニ付テハ技術者ノ同行ヲ必要トセズ他方技術家ノ同行スル場合ニ於テハ複雑ナル兵器ニ關スルトハ認メラレザルニ依リ注目ヲ要スル所ナリ

三、獨逸政府ハ此ノ意味ニ於テ尙法律上ノ二個ノ觀點ヲ指示致シ度、即チ一般的ニ認メラレタル戰時國際法ニ依レバ敵國商船ノ中立商船ヘノ國旗ノ變更ハ他方交戰國ニ依リ承認セラレズ仍テ前敵國旗ノ下ニ航行セル商船ハ交戰國ノ海軍ニ依リ假リニ現在該商船ガ中國國旗ノ下ニ航行スル場合ニ於テモ捕獲法ニ依リ取扱フコトヲ得ベキモノナル點ナリ、從テ右原則ハ上述セル以前亞米利加合衆國ニ屬セル三商船ニ適用シ得ルコト之レナリ、第二ノ法律上ノ觀點ハ、英國ハ戰時禁制品ノ概念ヲ既ニ戰爭開始期ニ當リ敵國ヨリ輸出セラルル商品ヲモ沒收シ得ベシト擴張解釋ヲ爲シタル點之レナリ

戰時禁制品ノ概念ニ關スル英側解釋及ソノ適用ハ其後英國ノ同盟國ノ又採用スル所トナリタリ即チ現在ノ戰爭ニ於テハ既ニ敵國側ハ長ク右ノ觀點ヲ實行シ來リタルモノニシテ敵國側ハ中立國ニ向ケラレタル中立商船ノ航行ヲ

止メシメ自國港ニ送致シ最モ慎重ニ自國港ニ於テ中立國商船ヲ點檢スルコトヲ敢テ爲シ得ルモノナリ英國ハ最近繰返シ葡萄牙及西班牙商船ヲ其ノ仕向地ガ葡萄牙乃至西班牙港ナルニ拘ラズ強制的ニ「ジブラルタル」ニ向ケ送致セリ

(別紙)

大東亞戰爭ニ於テ敵國ノ執ル措置ニ鑑ミ大正三年軍令海第八號海戰法規ノ一部ト異ル規定ヲ適用スルノ件
第五十五條 別段ノ規定ナキ限り左ノ各號ニ掲グル材料及物件ハ絶對的戰時禁制品タルベキモノトス

- 一 一切ノ武器、彈藥、爆發物、破壊具、化學戰用化學藥品又ハ其ノ器具類及此等ノ組成品、部分品、附屬品並ニ此等ノ製造、修理ニ供セラルル機械類
- 二 陸上、海上又ハ空中ニ於ケル一切ノ輸送機關又ハ輸送手段及此等ノ組成品、部分品、附屬品並ニ此等ノ製造、修理ニ供セラルル機械類
- 三 一切ノ燃料、加熱材料及ハ機械潤滑用材料及此等ノ組成品並ニ此等ノ製造、修理ニ供セラルル機械類

四 第一號乃至第三號ニ掲グル物件ノ使用ニ必要又ハ便利ナル物件又ハ獸類

五 軍事的行動遂行ニ必要又ハ便利ナル一切ノ陣營具、被服、通信器具、照明器具其ノ他ノ器具、機械類、地圖、繪畫、寫眞、文書及其ノ部分品、附屬具

六 貨幣、地金銀、紙幣、有價證券及借用證書

七 第四號乃至第六號ニ掲グル物件ノ生産、製造、修理又ハ使用ニ必要又ハ便利ナル物件

第五十六條 別段ノ規定ナキ限り左ニ掲グル材料及物件ハ條件附戰時禁制品タルベキモノトス

一切ノ糧食、飼料、糧秣又ハ被服並ニ此等ノ生産、製造ニ供セラルル材料及物件



404 昭和18年5月3日 松本外務次官 在本邦マリクソ連邦大使 會談

ソ連船抑留問題に關し即時釈放方マリク大使

より申入れについて

松本次官「マリク」大使會談錄

昭和十八年五月三日午後四時—五時十分(高杉)

（先方ヨリ申込ム、「スウズダレフ」同伴）

宗谷海峽ニ於ケル「ソ」聯船抑留ニ關スル件

「マリク」本日ハ重大ナル一問題ノ爲參上セリ

我方ニ判明セル處ニ依レバ日本海軍ハ宗谷海峽ニ於テ「カーメネッポドルスク」號、「イングール」號及「アルコス」號ノ「ソ」聯船三隻ヲ抑留シ最後ノ二隻ハ釋放シタル模様ナルモ「カーメネッポドルスク」號ニハ四月三十日日本國旗ガ掲揚セラレ大泊ヘ廻航セリ
我大使館ハ四月三十日本件ニ關シ貴外務省ニ申入ヲナシ置キタルモ未ダ回答ニ接セズ

依テ「ソ」政府ノ名ニ於テ海域及港ニ於テ斯ノ如ク船舶ヲ抑留セルコト及「ソ」聯船舶上ニ日本國旗ヲ掲揚セルコトニ對シ抗議スルト共ニ即時釋放方要求ス

次官 我方ニ於テモ日本ノ海戰法規違反ノ嫌疑アル「ソ」聯船舶（複數）ヲ取調ノ目的ヲ以テ停船ヲ命ジ臨檢搜查シ其結果嫌疑無キコト明白トナレルモノハ釋放セルガ尙一層精確ナル取調ヲ必要トスルモノニ付キテハ日本ノ港迄廻航ヲ命ジタリトノ報告ヲ受ケ居レリ尙詳細ニ付キテハ未ダ承知シ居ラザルニ付判明次第何分ノ回答ヲ致スベシ

「マリク」如何ナル嫌疑ニ因ルモノナリヤ又如何ナル海戰法規違反ナリヤ

次官 右ノ點ハ未ダ詳細ニハ承知セザルモ戰時禁制品ヲ積ミ居タル嫌疑カ或ハ日本ノ敵國ノ商船ガ開戰後「ソ」聯ノ國籍ヲ取得シタル嫌疑カニシテ之等ノ海戰法規違反ノ行爲アリタルヤ否ヤ取調ノ必要上廻航ヲ命ジタルモノト聞キ及ビ居レリ

「マリク」右ハ噂ニ依ラレタルモノナリヤ又具体的事實ニ依ラレタルモノナリヤ

次官 右ノ如キ報告アリタル次第ナリ

「マリク」日本ノ斯ル措置ハ海戰法^{（見次）}ノ見地ヨリシテ何等ノ根據ナキモノナリ

船ハ「ソ」聯ノ所有ニ屬シ如何ナル禁制品ヲモ積メルコトナク又斯ルコトハアリ得ザルコトニシテ全然抑留ノ根據ナシ依テ右ノ如キ抑留ニ對シ抗議シ即時釋放方ヲ要求ス日本ノ海軍當局ハ我方「クリコフ」海軍武官ニ對シ「ソ」聯船ヲ抑留シ又日本國旗ヲ掲揚シタルハ日本ノ戰時海戰法規ニ基クモノナリト述べラレタル趣ナルガ本使ハ右ニ對シ喫驚セザルヲ得ズ船ハ中立國ノ所有ニ屬シ而

モ正常ナル政治關係ニアル中立國ニ所屬シ居リ如何ナル中立性ヲ犯シタルコトナク又斯ルコトハアリ得ズ從ヒテ日本側ノ措置ニハ根據ナキ次第ナリ

依テ如何ナル理由ニテ抑留シ又國旗ヲ掲揚セルモノナリヤ正確ナル根據ヲ御示シ願ヒ度シ單ナル嫌疑云々ニテ中立國船ヲ抑留スルハアリ得ベカラザルコトナルニ付具體的ニ其ノ根據ヲ伺ヒ致シ度ク此ノ點ニ關シ貴次官ノ御話ヲ承リ度シ

次官 海戰法規ノ違反ノ有無ハ充分取調べタル上ニアラズバ分明セズ右取調ノ必要上中立國船舶ヲ交戰國ノ港迄廻航スルコトハ國際法ノ慣行トシテ既ニ承認セラレ居ル處ナリ從ヒテ別ニ日本海軍官憲ノ執リタル措置ガ違法ナリトハ考ヘ得ズ

未ダ詳細ナル報告ニ接シ居ラザルニ付何レ詳細ナル報告ヲ待チテ外務省ノ見解ヲ申述ベ度シト存スル次第ナルガ日本トシテハ貴國ト飽迄友好關係ヲ保チ居ルニ付交戰國ノ海軍ガ中立國ノ船舶ニ對シ行使シ得ル以上ノモノヲ日本ノ海軍官憲ガ行使スル筈ハナシ右ノ點ニ付キテハ日本官憲ノ好意的合法性ニ信賴セラレテ可ナリ

「マリク」 抑留セラレタルハ四月二十八日カ二十九日カニシテ既ニ五日ヲ經過シ居レリ然ルニ外務省ノ見解ハ闡明セラレズ又抑留ノ理由モ判明セズ從ヒテ只今貴次官ヨリ「ソ」側ハ安心シテ可ナリト言ハルルモ右ニハ納得シ得ズ船ハ現在ニ至ルモ判明シ得ザル理由ニテ抑留セラレ居リ右ニ對スル貴外務省ノ意向モ不明ノ儘ニシテ戰時禁制品輸送ノ嫌疑トカ交戰國ヨリ「ソ」聯側ヘノ船籍讓渡ノ嫌疑トカニ依ルモノナリトノコトナリ依テ右抑留ニ對シ抗議スルト共ニ至急釋放方ヲ要求ス

「ソ」聯ヘノ船籍讓渡ノ嫌疑云々ノ點ニ付キテハ本使ハ現在ノ場合該船舶ハ戰時國際法ニ當嵌マルモノニアラズト思考ス船ハ「ソ」聯政府ニ於テ所有シ所有權ハ政府ニ所屬シテ居ルモノナリ假ニ斯ル船籍ノ讓渡アリシト假想スルトスルモ敵船ノ「ソ」聯ヘノ讓渡ニヨリ「ソ」聯ハ該船ノ完全ナル所有權ヲ有シ居リ海戰ニ關スル國際法ノ主義特ニ倫敦宣言ハ適用シ得ザル次第ナリ

以上ノ次第ニテ貴次官ニ對シ至急釋放方ヲ要求ス
次官 本件ニ付キテハ何レ明確ナル回答ヲナスベキモ只今貴大使ノ述ベラレタル點即チ戰爭開始後ノ船籍移轉ハ日

本海戰法規第二二條及第二三條ニ違反トナルニ付若シ當該船舶が大東亞戰爭後交戰國ヨリ「ソ」聯邦ニ讓渡セラレタルモノトセバ我海軍官憲トシテハ之ヲ拿捕シ得ル譯ナリ右ノ點ノミハ取上ゲテ申シ上ゲ置キタシ然シ乍ラ誤解ナキ様念ノ爲申上ゲ置ク次第ナルガ現在ノ處船ハ嫌疑アル爲取調中ニシテ良ク取調ブル爲ニ日本ノ港ヘ廻航セル次第ナリ

「マリク」遺憾乍ラ本使ハ海戰法規第二三條ノ内容ヲ承知セザルモ本件ハ一九〇九年ノ倫敦宣言ニ當嵌マルモノニアラザルモノナリト申述ベザルヲ得ズ若シ該船ガ中立國ノ完全ナル所有ニ移リタリトセバスノ如ク船ヲ讓渡セル敵國ハ自己ノ欲スル儘ニ船舶ヲ處分シ得ズ從ヒテスル船舶ノ「ソ」聯ヘノ完全ナル讓渡ハ敵國ヲ強化セル次第ニモアラズ又敵國ヲ強化シ得ルモノニモアラザル譯ナリ從ヒテスル船舶ハ絶對的ニ「ソ」聯政府ノ所有ニシテ該法規ハ本問題ニハ適用シ得ズ

依テ根據ナキ抑留ニ對シ抗議スルト共ニ釋放ヲ主張スルモノナリ又貴次官ハ該船舶ハ審檢所ノ裁判ニ移ス考ナルヤノ如ク申サレタルガ右ハ法的根據ナキ次第ニシテ右ニ

對シテモ亦喫驚ノ外ナキコトヲ申シ上ゲ置クベシ

次官 之以上今議論スルモ仕方ナシ日本ハ海戰法規及國際法ニ從ヒ公正ニ解決シ得ルモノト思考ス自分トシテハ飽ク迄本問題ノ爲僅カニテモ日「ソ」國交ガ阻害セラルルガ如キコトナキ様努力シ居ルニ付其ノ點充分御承知置キ願ヒ度シ

本日ハ他ニ先約モアリ其時刻トナリ居ルニ付之ニテ失禮願ヒ度シ

「マリク」本問題ノ圓滿ナル解決ノ爲努力セラレツツアリトノ貴次官ノ御言葉ハ「テーク・ノート」シ置クベク本問題ガ他ノ方面ノ暗雲トナラザルコトヲ希望ス繰返シ申述べ置ク次第ナルガ現在ノ場合該船舶ニハ前述ノ法規ハ適用シ得ザルニ付右ハ篤ト御考慮置キ願ヒ度シ尙海戰法規ノ「テキスト」入手方御幹旋御願ス（席ヲ立チ上リ乍ラ）本問題ノ速カナル解決方吳々モ御願ス

次官 承知セリ



昭和18年5月8日

松本外務次官
在本邦マリクソ連邦大使 会談

ソ連船抑留問題に関しマリクより回答督促に

ついて

付記

昭和十八年五月七日付、条約局第二課作成

「開戦後ニ米國ヨリ蘇聯邦ニ船籍ヲ移轉シタル
船舶ノ處置問題ニ關スル法律上ノ意見」

松本次官「マリク」大使會談録(高杉)

昭和十八年五月八日午前十一時—十二時二十分

(先方ヨリ申込ム「スウズダレフ」同伴)

宗谷海峽ニ於ケル「ソ」聯船抑留ニ關スル件

「マリク」本日ハ抑留セラレ居ル「ソ」聯船ニ關スル回答
ヲ承リ度ク參上セルガ本件ハ如何相成居レリヤ次官 取調ベタル處ニ依レバ帝國海軍ハ宗谷海峽方面ニ於
テ四月二十八日「ソ」聯國旗ヲ掲ゲタル貨物船「カーメ
ネツポドルスク」號ヲ臨檢セルガ大東亞戰爭勃發後ニ米
國船ヲ「ソ」聯船ニ轉籍セル嫌疑極メテ濃厚ニシテ更ニ
詳細ナル調査ノ必要ヲ認メタルト調査中ノ船舶ノ安全ヲ
モ考慮シ附近ノ帝國港ニ廻航ヲ命ジタルコト判明セリ尙四月二十九日全然同様ノ理由ニヨリ是又「ソ」聯國旗
ヲ掲グル「イングル」號ニ對シテモ帝國港ニ廻航ヲ命
ジタリ目下東京ヨリ専門家ヲ右港ニ特派シ慎重ニ調査研究中ナ
ルニ付事態明確トナリハツキリ帝國政府ノ態度ヲ申上ゲ
ル時期到來セバ遲滯ナク回答申上ゲ度シト存ジ居レリ「マリク」前ノ五月三日ノ會談以來本使ハ本問題ハ速カニ
且圓滿ニ解決セラルベシト思考シ居リ又右ノ如ク思考シ
テ可ナル根據ヲ有シ居タルニ不明ナル理由ニ依リ又何等
本質的理由ナクシテ「カーメネツポドルスク」號及「イ
ングール」號ノ二隻ノ「ソ」聯船ノ問題ノ解決ハ遷延シ
兩船ハ現在ニ至ルモ釋放ヲ見居ラズ右ハ「ソ」聯ニ大ナ
ル經濟上ノ損害ヲ齎ラスモノナリ「ソ」側トシテハ只今述ベラレタル貴次官ノ御聲明ニハ
満足シ得ズ日本側ハ極メテ明白且速カニ正當ナルコトヲ
究明シ得ル本問題ノ研究ヲ既ニ十日近クニ及ブモ未ダニ
完了セズ先般ノ會談ニ於テ貴次官ハ日本ノ法規即チ海戦法規ニ基
キ御話アリタルガ本使ハ注意深ク右ヲ研究シ左ノ聲明ヲ

ナスモノナリ

即チ、右法規ノ主旨及精神トスル處ハ、交戰國船舶ノ中立國旗下ヘノ船籍變更ハ若シ該變更ガ問題ノ交戰國船舶タルコトヨリ生ズル結果ヲ免レンガ爲ノ目的ヲ以テ行ハレタルニアラザレバ有效ナリト看做サルルニアリ、「ソ」聯船ニ對スル日本官憲ノ行爲ハ右法規ニ根據ヲ求ムルヲ得ザルモノニシテ左ノ理由ニ依リ右法規ニ準據スルヲ反駁ス

第一、船舶ハ絶對且完全ニ「ソ」聯國家ノ所有船ナリ

第二、日本ノ法規及國際法ニハ敵船ノ中立國旗下ヘノ移轉ノ無効ニ關シテハ當該船籍ノ變更ガ交戰國ニ對シ船籍ヲ隱蔽スル目的ヲ以テ行ハレタル場合又交戰國ニ所屬スルコトヨリ生ズル結果ヲ免レントスル目的ヲ以テナサレタル場合無効トスル旨述ベラレ居レリ

「カーメネツポドルスク」號及「イングル」號ハ「ソ」聯國家ノ所有船ニシテ又交戰國船ノ中立國旗下ヘノ移轉ヲ全く無効トスル右法規ノ條件ハ抑留セラレタル船舶ノ所有權ガ「ソ」聯國家ニ歸屬シ居リ右ガ「ソ」聯政府ノ手許ニアル書類及船舶内ニアル船舶書類ニヨリ明白ニ立

證セラルル以上適用ヲ受クルモノニアラザルヲ以テ右二隻ノ抑留ノ根據ヲ右法規ニ求ムルハ根據ナシ

第三、米國船ノ「ソ」聯國家ヘノ所有權ノ變更ハ右變更ノ結果米國ヲシテ該船ヲ自國ノ自由ニ處分、運營シ收益ヲ揚ゲ得ザラシムルモノニシテ斯ノ如キ船籍ノ變更ガ米國ヲ強化スルニアラザルハ明白ナリ、從テ變更ヲ無効ナリト認ムル何等ノ理由トナリ得ズ

斯ノ如ク變更ハ國際法ヨリ見ルモ日本ノ法規ヨリ見ルモ完全ニ有效ナリ

右ノ次第ニテ本使ハ改メテ船舶ノ抑留及日本國旗ノ船舶上掲揚ニ對シ繰返シ抗議スルト共ニ即時釋放方ヲ要求スルニ於テ目下慎重研究中ノコトナルニ付本日自分トシテハ右以上申上ゲ兼ヌルヲ遺憾トス從テ貴大使ノ述ベラレタル我國ノ海戰法規ノ解釋其他ニ關スル、法律上ノ御議論ヲ一々反駁スルコトハ未ダ明白ナラザル事實ニ對シ適用ヲ豫想セラルル法律ノ議論ヲナスコトトナルニ付右ハ避ケ度ク又日本海戰法規ノ解釋ハ日本側ガ之ヲ行フベキニシテ「ソ」側ノ解釋ニ拘束セラルル理由ナシ唯此際申上

ゲ置キタキハ只今貴大使ノ述ベラレタル諸點ニ對スル自分ノ見解ハ種々ノ點ニ於テ異リ居リ遺憾乍ラ承服致シ難キコトナリ

我海軍官憲ノ執レル措置ハ完全ニ國際法ノ慣行ニ從ヒ交戰國ガ當然行使シ得ル權利ヲ行使シタルモノナリ何レニスルモ本件ハ調査ノ結果ガ判明スレバ遲滯ナク回答申上グル筈ナリ

「マリク」 本日本使ノナシタル聲明ハ法律上ノ議論乃至日本法規ノ解釋ニ關スル議論ノ形式ニ於テナシタル意味ニハアラズ該法規及一九〇九年ノ倫敦宣言ノ規定ガ二隻ノ「ソ」聯ニ對シテハ適用シ得ザルコトヲ立證セントスル意味ニ於テ行ヘルモノナルニ付此ノ意味ニ於テ本使ノ聲明ヲ受理セラレ問題ノ解決ニ當リ考慮ニ加ヘラレ度シ、本使ハ問題ノ急速ニシテ且圓滿ナル解決ヲ主張シ二隻ノ釋放ヲ主張スルモノナルガ何時頃迄ニハ解決シ得ル見込アリヤ大體ノ時期ニテモ伺ヒ度シ

次官 日本側トシテハ此ノ二隻ノ「ソ」聯船ガ我海戰法規（從テ倫敦宣言）ニ從ヒテ拿捕シ得ルモノナリトノ嫌疑アルニヨリ取調中ナルハ自分ヨリ度々申上ゲタル通りナリ

聞ク處ニ依レバ之等ノ船舶書類ニモ色々不備アリ調査ニハ手間取ルベシトノ報告ヲ受ケ居レルモ自分自身トシテハ本件ノ如キ日「ソ」間ノ友好關係ニ影響ノ及ブ恐レアルモノハ一日モ早クハツキリサセ度ト思ヒ居リ、調査ノ結果ノ報告ヲ督促シ居レリ、付キテハ自分ノ意ノアル處ハ充分了トセラレ度シ

「マリク」 （英語ニテ書類ハ全部備ハリ居リ急速ナル釋放ヲ主張スル旨述ベ）先般ノ會談ニ於テモ亦本日ノ會談ニ於テモ申述べ又三度目ニ是ヨリ申上グル通り拿捕ヲ行フ根據ハナシ

書類ニ關シテモ本使ガ屢々申上ゲタル通り船ノ所有權ハ完全且無條件ニテ「ソ」聯ノモノニシテ右ハ「ソ」聯政府ノ所有シ居ル書類及船中ニアル書類ニヨリ明白ナリ、「ソ」聯ニトリ重大ナル本問題ハ日「ソ」兩國間ノ關係ニ影響セザルヲ得ズト本使モ思考ス

本問題解決ノ爲御努力下サルベシトノ貴次官ノ御言葉ハ「テークノート」スルト共ニ問題ノ肯定的解決ヲ鶴首シテ御待チス、月曜日ニハ電話ニテ御督促致スベシ

(付記)

開戦後ニ米國ヨリ蘇聯邦ニ船籍ヲ移轉シタル船舶ノ處置問題ニ關スル法律上ノ意見

昭和十八年五月七日 條約局第二課

一、本件ニ關シ法律上考察ヲ要スルハ左ノ二點ナリ。

(一) 本件船舶ハ之ヲ拿捕沒收シ得ベキヤ。

(二) 本件船舶ノ引致抑留ハ適法ナリヤ。

二、然ル處當該船舶ニ付調査セル所ニ依レバ本件船舶ガ大東亞戰爭勃發後ニ於テ米國ヨリ蘇聯邦ニ船籍ヲ移轉シタルモノナルコト略明カニシテ且法律上右ノ推定ヲ爲スベキ十分ノ理由アルモノノ如シ。然ルニ一般ニ戰爭開始後ニ爲サレタル敵船ノ中立國籍ヘノ船籍移轉ハ原則トシテ之ヲ無效トスルコトハ交戰國ノ權利トシテ國際法上一般ニ認メラレ居ル所ナリト言ヒ得ベク我海戰法規モ之ヲ採用シタルモノニ外ナラズ(海戰法規第二十二條、第二十三條及倫敦宣言第五十六條參照)。從テ右(一)ノ點ニ關シテハ本件船舶ガ拿捕シ且審檢手續ヲ經テ沒收シ得ベキモノナルコトニ付テハ疑問ノ餘地ナシト思考ス。

三、次ニ臨檢搜索ノ爲必要ナル場合中立船ヲ自國港ニ引致シ

又ハ之ニ對シテ回航ヲ命ズルコトハ今日ニ於テハ現實ノ必要ニ基キ交戰各國ニ依リ一般ニ行ハレ居ル所ナリ。特ニ英國ノ如キハ今次戰爭ニ際シ更ニ一步ヲ進メテ所謂敵貨拿捕令ヲ以テ單ニ敵國產品ヲ積載シ居ルトノ理由ノミニ依リ一切ノ中立船ニ對シ一定ノ英國港ニ回航スベキコトヲ要求スルノ措置ニ出デタリ。之ヲ以テ觀レバ右(二)ノ點ニ關シテモ敵船タルノ嫌疑濃厚ニシテ(本件ニ付テハ船籍移轉ノ外海戰法規第六六條、第一百七條及第十八條第二項ノ嫌疑アリ)而モ法律上ヨリスレバ當然拿捕セラルベキ本件船舶ニ付敵性ノ有無ヲ調査スル爲之ヲ引致抑留シタルコトハ何等違法トスベキ理由ナシ(尙本件船舶ガ國有船ナルコトハ其ノ通商業務ニ從事シ居リタルニ鑑ミ何等ノ特權ヲ認ムル原因ト認メ難シ)。

四、右ニ拘ラズ政治上ノ理由ニ依リ本件船舶ヲ解放スル場合ニ於テハ本件ニ關スル法律上ノ觀點ハ特ニ之ヲ明確ニシ右ノ取扱ガ全ク恩惠的措置ニ外ナラザル所以ヲ強調シ以テ引致抑留ニ對スル賠償ノ問題ヲ生ズルノ餘地ナカラシムルト共ニ(假令海戰法規第二十三條ニ該當セズトスルモ損害賠償ヲ申立ツルノ權利ナキコト同法規第二十二條

第二項末段ニ依リ明ナリ）右解放ニ當リ我方ニ於テ附スベキ條件ヲシテ眞ニ實效アラシムル様スルコト肝要ナリト思考ス。

吾、尙本件ノ現地調査ニ於テハ載貨ノ點ハ全然問題トセラレ居ラザルモ載貨中ニ重慶政權ニ仕向ケラレタルモノト認定セラルベキモノ有ル場合ニハ之ヲ戰時禁制品トシテ取扱ヒ其ノ全載貨ニ對シテ占ムル割合ノ如何ニ依リテハ之ヲ積載スル船舶自體ヲ沒收シ得ト爲シ得ベキ場合モアリ得ベシ。

406

昭和18年5月12日 在ソ連邦佐藤大使より
重光外務大臣宛（電報）

ソ連船舶留問題につきソ連政府より正式抗議
及び釈放要求について

別 電 昭和十八年五月十二日発在ソ連邦佐藤大使より

り重光外務大臣宛第五三〇号

右抗議文

クイビシエフ 5月12日後発

本 省 5月16日前着

第五二九號

第十二日「ロゾフスキー」ハ本使ノ來訪ヲ求メ用意ノ書物ニ依リ要旨別電第五三〇號ノ通り讀ミ上ケ之ヲ手交セリ依テ本使ハ蘇政府ノ本件抗議ハ早速本國政府ヘ傳達スヘク政府ニ於テハ慎重研究ノ上回答スルコトナルヘシ併シ只今貴下ハ日本海軍ノ採レル措置ハ不法ナリト言ハレタルカ日本ノ海戦法規ハ開戦後ノ船籍移轉ヲ認メサルニ依リ日本海軍ノ採レル措置ハ法規ニ準據スル合法的ノモノナリ而シテ右國內法規ハ倫敦宣言ノ規定ニ完全ニ合致スルモノニテ又國際慣例モ此ノ慣行ヲ認ム而シテ蘇聯船二隻カ今猶釋放セラレサルハ目下取調中ナルカ爲ナリ兎ニ角日本海軍ノ措置ヲ以テ不法トナス貴言ニ對シテハ本使ハ斷シテ同意スル能ハス以上ハ本使ノ私見ナルカ詳細ハ何レ本國政府ノ回訓ヲ待チ回答スヘシ尤モ茲ニ附言シ置キタキハ蘇政府カ蘇聯船二隻ノ釋放セラレサル事實ヲ以テ日本政府ノ本件態度ハ同政府ノ中立條約ニ基ク對蘇親善關係ニ關スル屢次ノ確言ト矛盾シ其ノ對蘇政策ノ變更ヲ示スモノニアラスヤトノ問題ヲ提起スル根據ヲ與フルモノト爲ス點ナルカ右ハ勿論然ラスシテ對蘇政策ノ變更ヲ意味スルモノニ非サルコトハ松本次

官ヨリモ「マリツク」大使ニ言明セル通ナリ日蘇兩國ハ親善國ナルニ相違無キモ日本トシテハ交戰國ノ權利ハ之ヲ主張セサルヲ得サル次第ニテ

本件^②ノ後始末ヲ如何ニ爲スヘキヤハ後日ニ殘サレタル問題ナリト應酬セルニ「ロ」ハ日本海軍ノ措置カ國際法就中倫敦宣言ニ合致ストノ本使ノ意見ニ同意スルヲ得スト同宣言第五十六條ヲ引用セル後問題ノ汽船ニ隻カ蘇聯船ニ相違ナキコトハ同船等ノ有スル船舶書類ニ徴スルモ明白ナリト附言シ尙日蘇親善關係ハ確言ニ依ラス事實ヲ以テ示スノ要アリテ確言ト事實トハ合致スヘキナリト述ヘタルニ依リ本使ハ本日ハ已ニ述ヘタル以外附言スル所無シ詳細ハ後日ニ讓ルコトトナスヘキカ茲ニ參考迄一言セハ日本ノ海戰法規ハ開戰前ニ於ケル船籍移轉ノ事實アラハ之ヲ以テ事足レリト爲スモノニテ今回ハ之カ適用ヲ見タルニ過キス若シ日本カ之ヲ適用シ得ストセハ日本ハ不利ナル立場ニ陥ルヘシ蓋シ米國ハ今次戰爭ニ於テ若干ノ中立國ヲ有スルニ依リ中立國ノ船籍ヲ取得スルコトニ依リ米國船舶ハ巧ニ日本海軍ノ攻撃ヲ免レ得ヘク之ト異リ日本ハ中立國ノ船籍ヲ取得スル必要モ無キカ兎ニ角日本船舶ハ終始日本船舶ニテ英米海軍

ヨリノ假借ナキ攻撃ニ曝サルルヲ以テナリスルカ故ニ右日本ノ海戰法規ハ日本ノ利益ヲ保護スルモノニテ大ナル意義ヲ持ツモノナリト述フ之ニ對シ「ロ」ハ貴使ノ法律論ニ承服スルヲ得ス即チ貴使ハ日本ノ國內法規ヲ採用セラレタル

カ國內法規ハ國際法ニ牴觸スルヲ得サルモノニテ^③之ニ抵觸スル國內法規ヲ善隣ノ中立國ニ對シ適用セラルルハ如何カト存スルモ兎ニ角貴使ノ述ヘラレタル所ハ私見ニ止マルトノコトナレハ日本政府ノ正式回答ヲ俟ツコトト致スヘシ日本政府ニ於テハ蘇聯ノ利益ヲ考慮セラレ且双方ノ有利ノ爲ニ中立條約上ノ關係ヲ尊重セラレ本件ヲ圓滿ニ解決セラルルモノト期待スト述ヘタリ

仍テ本使ハ曩ニ述ヘタル通り日本ノ海戰法規ハ倫敦宣言ニ完全ニ準據シ制定セラレタルモノナレハ國際法ニ基礎ヲ置ク國內法ナル點ヲ明確ニシ置キ度シ尙茲ニ説明シ度キハ第一次世界大戰ニ於テハ英佛等聯合國ハ倫敦宣言ノ規定以上ニ嚴格ナル取扱ヲナセリ即チ彼等ハ同宣言中ニ開戰後ノ船籍移轉ニ付二、三ノ例外アルニ拘ハラス之ヲ除外無シニ總テ無効トナセリ而シテ之ヲ一般的ニ言ヘハ船籍ノ移轉カ善意ニ基クカ惡意ニ基クヤハ問題ニナラサル次第ナリ兎ニ角

本使トシテ成ルヘク早目ニ本國政府ノ回訓ヲ得テ回答スルコトトスヘシト言ヘルニ「ロ」ハ夫ニテ結構ナリ本日ノ會談ニ依リ本件ニ關スル双方ノ見解明白トナレルカ蘇政府ハ日本政府ニ於テ本日ノ蘇側申入ヲ考慮セラレ至急蘇聯船釋放ノ措置ヲ講セラルルモノト期待スト言ヒ本使ヨリ蘇聯ハ倫敦宣言ノ署名國ナリヤ參考迄承知シ度シト問ヘルニ「ロ」ハ蘇聯ハ帝政露國ノ調印セル其ノ他ノ國際條約ヲ遵守スル限度ニ於テ之ヲ遵守スヘシト答ヘタリ

(別電)

クイビシエフ 5月12日後発
本省 5月16日前着

第五三〇號

宗谷海峡ニ於テ四月二十八日「カーメネツ、ピドリスク」號又同月二十九日「イングル」號何レモ日本官憲ニ依リ抑留セラレ同船等ハ日本國旗ヲ掲ケ大泊港ヘ連行セラレ今日ニ及ヒ居レリ

在京蘇大使ハ五月三日右兩船ノ抑留ニ付抗議スルト共ニ至急釋放方要求セルニ松本次官ハ海軍當局ニ於テ右兩船ヲ日

本海戦法規侵犯ノ嫌疑ニ依リ抑留セルモノナル旨ヲ答ヘラレ且本問題ノ急速且好意的審議方ヲ約セラレタリ越エテ五月八日松本次官ハ右船舶ハ日米開戦後米國カ蘇政府ヘ轉籍ノ上讓渡セルモノナリトノ嫌疑ニ依リ抑留セラレタル旨ヲ確言セラレ蘇大使カ不法抑留船ノ至急釋放方要求セルニ拘ラス右兩船ハ今日ニ至ル迄釋放セラレス外務部ハ蘇政府ノ命ニ依リ蘇聯所有タル右兩船ヲ抑留セル日本官憲ノ不法行為ニ對シ日本政府ノ注意ヲ喚起スルト共ニ同不法行為ニ付嚴重抗議スル要アリト認ム

日本政府カ蘇聯國有商船二隻ノ釋放ニ對シ今日迄必要ナル手段ヲ講セサルノ事實ハ日本政府ノ本件態度カ同政府ノ中立條約ニ基ク對蘇親善關係ニ關スル累次ノ確言ニ矛盾シ其ノ對蘇政策ノ變更ヲ意味スルモノニ非サヤトノ問題ヲ提起スル根據ヲ與フルモノナリ

407 昭和18年5月17日 大本營政府連絡會議決定

「大東亞戰爭開戦後敵國ヨリ船籍ヲ移轉セル
「ソ」聯船舶ノ取扱ニ關スル件」

●大東亞戰爭開戦後敵國ヨリ船籍ヲ移轉セル「ソ」聯船舶ノ取扱ニ關スル件

大東亞戰爭開戦後敵國ヨリ船籍ヲ移轉セリト認メラルル「ソ」聯船舶ニ對シテハ臨檢引致ノ上嚴密ナル調査ヲ行フモ之ガ最終的處理ハ其ノ際ノ情勢ヲ考慮シ其ノ都度之ヲ決定ス

408 昭和18年5月17日 大本營政府連絡會議決定

「引致「ソ」聯船舶ノ取扱ニ關スル件」

●引致「ソ」聯船舶ノ取扱ニ關スル件

現在引致取調中ノ「ソ」聯汽船「イングル」號及「カメネツツ」⁽⁷⁴⁾、ホドエスク」號ハ大東亞戰爭開戦後米國ヨリ船籍ヲ移轉セルモノニシテ拿捕至當ト認メラルルモ現下ノ情勢ニ鑑ミ左記ヲ「ソ」聯側ニ徹底セシメタル後之ヲ解放ス

記

一、兩船ハ拿捕ヲ至當トスルモ帝國トシテ日「ソ」關係ノ大局的見地ニ基キ特ニ解放スルモノニシテ我方ハ交戰國ノ權利ヲ放棄スルモノニ非ラザルコト

ニ我方ノ本件處理ノ態度ニモ鑑ミ「ソ」聯側ニ於テモ同様ノ考慮ノ下ニ諸懸案ノ解決ニ努ムルコト

409 昭和18年5月22日 在ソ連邦佐藤大使より重光外務大臣宛(電報)

ソ連側より抑留ソ連船乗組員との面会申入れ及び戦時禁制品輸送に関する意見交換について

クイビシエフ 5月22日後着
本省 5月23日後着

第五八九號

●⁽¹⁾二十一日會見ノ際「ロゾフスキー」ハ本使ニ對シ蘇汽船「ボ」號及「イ」號ノ抑留問題ニ言及シ日本側ハ在京蘇大使館員ノ兩船乗組員トノ面會ヲ許容セラレサル處在京大使館ハ日本ニ在ル自國民ノ保護ニ任シ得ヘキモノナルコトハ國際法ノ認ムル所ナルヲ以テ日本側ノ右態度ハ國際法ニ背反ストテ面會許容方斡旋ヲ求メ尙右兩船ハ今大泊ニテ抑留セラレ居ルカ右ハ蘇政府部内ニ不快ナル印象ヲ與ヘ居レリト附言セリ
依テ本使ハ申出ノ次第ハ早速本國政府ヘ傳達方取計フヘキ

モ本問題ニ付テハ察スルニ日本ノ法律ニ依レハ事件ノ取調
中外國官憲ノ現地調査ハ之ヲ認メサルコトトナリ居ルニ依
リ日本側ニ於テハ本件面會ヲ許容出來サルモノト思考セラ
ル尙船舶ノ抑留ニ付テハ同船舶付ケノ船舶書類不備ナル爲
我外務省ヨリ取調上必要ナル追加ノ事項ノ申請ヲ求メタル
カ未タニ之カ申告ナキ由ナリト應酬セルニ「ロ」ハ船舶抑
留後既ニ三週間以上經過セルニ拘ラス日本側カ今尙釋放セ
サルハ如何ナルヘキヤ又大使館員ノ面會ヲ許容セラレサル
ハ前述ノ如ク國際法ヲ侵犯スルモノト認メサルヲ得スト述
ヘタルニ依リ

本使ハ忌憚ナク言ヘハ米國ノ對蘇援助ハ明白ナル事實ナル
處若シ蘇側カ純粹ノ自國船ニ依リ輸送スル場合ニハ戰時禁
制品輸送ノ場合ヲ除キ日本側ニ於テ之ニ干涉スルモノニ非
スト思考スルモ若シ米國船ニ依リ輸送スル場合ハ日本海軍
ノ執ルヘキ措置ハ自ツカラ明白ナリ本件ハ米國船カ開戦後
蘇聯船ニ轉籍シ輸送セルカ爲ニ發生セルモノナレハ之カ解
決ハ簡單ニ行カスト思考スト述フ之ニ對シ「ロ」ハ貴使ハ
戰時禁制品ト言ハルモ蘇聯ハ日本ニ對シ中立國ナルヲ以
テ戰時禁制品ノ問題起リ得ス又船舶二隻ハ何レモ蘇聯船ナ

ルヲ以テ問題トナラサルヘシ要スルニ國際法ノ引用ハ日本
側ニ取リ確固タル論據ヲ與フルモノニ非サルヘシト言ヘル
ニ依リ本使ハ本件抑留ニ關スル日本側ノ見解ハ既ニ貴方ニ
テ御承知ノ通ナリ米國ハ大西洋經由ノ對英援助困難ナルニ
鑑ミ或ハ蘇聯經由ニテ對英援助ヲナスコト有リ得ヘク從テ
日本ニ取リテハ戰時禁制品ノ問題起リ得ル譯ナリト答ヘ置
キタリ



410 昭和18年8月16日 大本營政府連絡會議決定

「大東亞戰爭開戦後敵國ヨリ船舶ヲ移轉セル

「ソ」聯船舶ノ取扱ニ關スル件」

◎大東亞戰爭開戦後敵國ヨリ船舶ヲ移轉セル「ソ」聯船
舶ノ取扱ニ關スル件

本件ニ關シテハ昭和十八年五月十七日大本營政府連絡會議
決定ニ拘ハラズ諸外交折衝ノ狀況ヲ考慮シ當分ノ間臨檢引
致及調査ヲ緩和スル如ク措置ス

說 明

本案決定ニ伴ヒ海軍ニ於テハ現地部隊ニ對シ此ノ種船舶ニ對スル從來ノ處置即チ引致抑留ヲ暫定的ニ中止シ現場臨檢或ハ信號訊問程度ニ止ムル如ク措置ス

~~~~~

411 昭和18年8月17日

重光外務大臣より  
在ソ連邦佐藤大使宛(電報)

轉籍ソ連船舶の抑留に關し今後の対処方針に  
ついて

本省 8月17日後10時40分發

第七一六號(極秘、館長符號、緊急)

貴電第八一號乃至第八一四號ニ關シ

一、轉籍蘇聯船舶ノ抑留ニ關シテハ彼我其ノ主張ノ根據ヲ異ニシ居ル爲今日迄種々紛爭ヲ繰返ヘシタルカ結局具體的三船舶ニツキテハ我方ノ政治的考慮ニヨリ釋放ノ結果一先ツ懸案解決ノ狀態ニ在リ

二、依テ問題ハ結局今後同種類ノ船舶ヲ如何ニ取扱フヤニ在リ此ノ點ニ關シ蘇側ハ將來ノ保證ヲ要求シ居レル處我方ニ於テ斯ル保障ヲ與ヘ得サルハ御來示ノ通りニシテ又既存ノ轉籍船舶ト然ラサルモノトニ區別シテ日蘇双方ニテ或

程度ノ了解ヲ爲シ合フコトモ我方ニ於テハ主義上ノ問題トシテ贊成致シ兼ヌル所ナリ

三、然ルニ將來同種事件ノ發生カ日蘇關係調整ノ爲好マシカラサルハ勿論ナルヲ以テ今般關係方面ト折衝ノ結果「轉籍蘇聯船舶ニ對シテハ外交交渉上ノ都合ヲモ考慮シ當分ノ間引致抑留ヲ緩和スル」コトニ十六日連絡會議ノ決定ヲ得ルニ至レリ(海軍側ニ於テ事實上引致抑留ヲ當分差控フルコトトナレリ)斯クテ多大ノ困難ヲ排シ當分ノ間同種ノ事件(「ドヴィナ」號ノ如キ場合ハ性質ヲ異ニス)ハ發生セサルヘク差當リノ日蘇國交調整ノ障害ハ除キ得ヘシト存セラル右ノ決定ハ單ニ貴大使ノ腹ニ藏メテ交渉ニ當ラルル様致度シ

四、今後若シ將來ノ保障問題ニ付話出テル際ニハ貴使ヨリアツサリ「帝國ハ交戰權ノ放棄トナル如キ將來ノ保障ハ斷シテ與ヘ得サル所ナルカ素ヨリ我方ハ日蘇正常關係ヲ阻害スル如キ事件ノ發生ハ極力之ヲ避ケタキニ付蘇側ニ於テモ我方同様日蘇友好關係ノ維持増進ヲ希望スルニ於テハ同様ノ努力ヲ拂ハレタキ趣旨」ヲ以テ說示セラレ(以上ヲ書物トシテ提出スルハ不適當ナリ)保障問題ニハ深

入リセラレサル様致度シ

又、前記連絡會議決定ハ貴使御來示ノ御希望ニ概ネ合致スル  
モノト存スルニ付テハ右御含ノ上利權壓迫解除第六日鮮  
丸及第六金城丸等ノ問題解決ニハ此ノ上確固タル態度ヲ  
以テ交渉ヲ續行シ累次訓令ノ趣旨ニ依リ日蘇國交ノ根本  
的調整ニ努メラレタシ

編 注 本文書は「極東国際軍事裁判關係文書」より採録。

